

得点	/ 20
----	------

氏名 \_\_\_\_\_

問題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 売掛金¥280,000の回収として、得意先振り出しの約束手形を受けとった。
2. 北海道商店から商品代金として受け取っていた、同店振出し、当店あての約束手形¥280,000が不渡りとなったので、北海道商店に償還の請求をした。なお、償還請求のための諸費用¥8,500は現金で支払った。
3. かねて、東北商店に償還請求中の不渡手形について、本日、手形額面¥400,000 償還請求費用¥7,200 および期日後の利息¥1,900を、ともに現金で受け取った。
4. 東京商店の依頼により、同店が銀行から借入金¥700,000について、保証人となった。なお本店では、偶発債務について対照勘定により備忘記録を行っている。
5. かねて債務保証していた取引先千葉商店の借入金¥800,000が返済された旨の連絡を受けた。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 売掛金¥280,000の回収として、得意先振り出しの約束手形を受けとった。
2. 北海道商店から商品代金として受け取っていた、同店振出し、当店あての約束手形¥280,000が不渡りとなったので、北海道商店に償還の請求をした。なお、償還請求のための諸費用¥8,500は現金で支払った。
3. かねて、東北商店に償還請求中の不渡手形について、本日、手形額面¥400,000償還請求費用¥7,200 および期日後の利息¥1,900を、ともに現金で受け取った。
4. 東京商店の依頼により、同店が銀行から借入金¥700,000について、保証人となった。なお本店では、偶発債務について対照勘定により備忘記録を行っている。
5. かねて債務保証していた取引先千葉商店の借入金¥800,000が返済された旨の連絡を受けた。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(受取手形)	280,000	(売掛金)	280,000
2	(不渡手形)	288,500	(受取手形) (現金)	280,000 8,500
3	(現金)	409,100	(不渡手形) (受取利息)	407,200 1,900
4	(保証債務見返)	700,000	(保証債務)	700,000
5	(保証債務)	800,000	(保証債務見返)	800,000

得点	/ 20
----	------

氏名 \_\_\_\_\_

問題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 全従業員に支給するため、事務用のパソコン(現金購入価格@¥ 145,800)100台を割賦で購入し、代金としての約束手形を振り出して相手先に交付した。
2. 不要になった備品を取引先群馬商店に売却した際、代金として同店振出しの約束手形 ¥ 400,000 を受け取っていたが、支払期日を迎えたにもかかわらず、この手形が決済されていなかった。
3. かねて債務保証していた取引先神奈川商店の借入金 ¥ 900,000 について、同店が支払不能となったため、遅延利息 ¥ 12,000 とともに小切手を振り出して支払った。
4. 広告用看板の掲示に関する契約を締結し、今後3年分の広告料金 ¥ 2,700,000 を普通預金から支払ってその総額をいったん資産(長期前払費用)に計上し、さらに計上した資産から当月分(1か月分)の費用の計上を行った。
5. 支払保険料 ¥ 36,000 は、3年分の前払いであり、決算日において、6か月が経過している。

No.	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

※1年を超える前払費用(前払保険料など)については、長期前払費用という勘定科目を使用する。

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 全従業員に支給するため、事務用のパソコン(現金購入価格@¥ 145,800)100台を割賦で購入し、代金としての約束手形を振り出して相手先に交付した。
2. 不要になった備品を取引先群馬商店に売却した際、代金として同店振出しの約束手形 ¥ 400,000 を受け取っていたが、支払期日を迎えたにもかかわらず、この手形が決済されていなかった。
3. かねて債務保証していた取引先神奈川商店の借入金 ¥ 900,000 について、同店が支払不能となったため、遅延利息 ¥ 12,000 とともに小切手を振り出して支払った。
4. 広告用看板の掲示に関する契約を締結し、今後3年分の広告料金 ¥ 2,700,000 を普通預金から支払ってその総額をいったん資産(長期前払費用)に計上し、さらに計上した資産から当月分(1か月分)の費用の計上を行った。
5. 支払保険料 ¥ 36,000 は、3年分の前払いであり、決算日において、6か月が経過している。

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
1	(備 品)	14,580,000	(営業外支払手形)	14,580,000	
2	(不 渡 手 形)	400,000	(営業外受取手形)	400,000	142回 1-3
3	(未 収 入 金)	912,000	(当 座 預 金)	912,000	
	(保 証 債 務)	900,000	(保証債務見返)	900,000	
4	(長 期 前 払 費 用)	2,700,000	(普 通 預 金)	2,700,000	139回 1-2
	(広 告 宣 伝 費)	75,000	(長 期 前 払 費 用)	75,000	
5	(前 払 保 険 料)	12,000	(支 払 保 険 料)	30,000	
	(長 期 前 払 費 用)	18,000			

※1年を超える前払費用(前払保険料など)については、長期前払費用という勘定科目を使用する。

得点	/ 20
----	------

氏名 \_\_\_\_\_

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 甲府商店は、山梨商店に対する買掛金¥ 200,000 の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通じて債務の発生記録を行った。
2. 山梨商店は、甲府商店に対する売掛金¥ 200,000 について、電子記録債権発生の連絡を取引銀行より受けた。
3. 山梨商店は、電子債権記録機関に発生記録した債権¥200,000 の支払期日が到来し、普通預金口座に振り込まれた。
4. 甲府商店は、電子債権記録機関に発生記録した債権¥200,000 の支払期日が到来したので、当座預金口座から引き落とされた。
5. 新潟商店は、長岡商店に対する買掛金¥ 150,000 の支払いを電子債権記録で行うため、取引銀行を通じて電子記録債権の譲渡記録を行った。
6. 富山商店は、電子記録債権のうち¥ 150,000 を銀行で割り引き、割引料¥ 2,000 が差し引かれた残額が当座預金口座へ振り込まれた。
7. 電子記録債権¥ 300,000 を割り引くために、取引銀行を通じて電子記録機関に当該債権の譲渡記録の請求を行い、取引銀行から割引料¥ 2,800 を差し引いた手取金が当座預金の口座に振り込まれた。

No.	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

問 題 次の各取引について仕訳しなさい。(20点)

1. 甲府商店は、山梨商店に対する買掛金¥ 200,000 の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通じて債務の発生記録を行った。
2. 山梨商店は、甲府商店に対する売掛金¥ 200,000 について、電子記録債権発生との連絡を取引銀行より受けた。
3. 山梨商店は、電子債権記録機関に発生記録した債権¥200,000 の支払期日が到来し、普通預金口座に振り込まれた。
4. 甲府商店は、電子債権記録機関に発生記録した債権¥200,000 の支払期日が到来したので、当座預金口座から引き落とされた。
5. 新潟商店は、長岡商店に対する買掛金¥ 150,000 の支払いを電子債権記録で行うため、取引銀行を通じて電子記録債権の譲渡記録を行った。
6. 富山商店は、電子記録債権のうち¥ 150,000 を銀行で割引き、割引料¥ 2,000 が差し引かれた残額が当座預金口座へ振り込まれた。
7. 電子記録債権¥ 300,000 を割り引くために、取引銀行を通じて電子記録機関に当該債権の譲渡記録の請求を行い、取引銀行から割引料¥ 2,800 を差し引いた手取金が当座預金の口座に振り込まれた。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	200,000	電子記録債務	200,000
2	電子記録債権	200,000	売掛金	200,000
3	普通預金	200,000	電子記録債権	200,000
4	電子記録債務	200,000	当座預金	200,000
5	買掛金	150,000	電子記録債権	150,000
6	当座預金 電子記録債権売却損	148,000 2,000	電子記録債権	150,000
7	当座預金 電子記録債権売却損	297,200 2,800	電子記録債権	300,000

6. 7. 電子記録債権の割引料（換金のための譲渡の手数料）は「電子記録債権売却損」

得点	/ 20
----	------

氏名 \_\_\_\_\_

問 題 (20点)

東京商店(株)が、取引銀行(日商銀行)より取り寄せた当座預金の残高証明書(平成X年3月31日現在)は、当初の当座預金出納帳の残高と一致していなかった。次の資料により銀行勘定調整表を作成しなさい(摘要欄と金額欄に記入すること)。また、期末修正仕訳を示しなさい。ただし仕訳が不要な場合には「仕訳なし」と記入すること。

資料Ⅰ 日商銀行残高証明書残高 ￥987,000

資料Ⅱ 東京商店の当座預金出納帳残高 ￥960,000

資料Ⅲ 不一致の原因を調査したところ次の事項が判明した。

1. 得意先鎌倉商店に対する受取手形¥50,000が期日決済され取り立てられたが、通知が当社に未達であった。(入金連絡未達)
2. 仕入先大船商店に買掛金支払いのため小切手¥20,000を振り出したが、先方に未渡しであり、未だに出納係の手許にあった。
3. 送金手数料¥3,000が当座預金口座から引き落とされていたが、当社では未記入であった。(送金手数料未記入)
4. 得意先横須賀商事より売掛金の回収として、同商事振り出しの小切手¥10,000を受け取り、ただちに当座預金として預け入れたが、いまだ取り立てられていなかった。
5. 仕入先川崎商店に対する買掛金の支払いとして、小切手¥40,000を振り出したが、未取付であった。
6. 3月31日に現金¥70,000を当座預金口座へ預け入れたが、銀行の営業時間終了後であったため、銀行は翌日の入金として処理していた。(時間外預入)

銀行勘定調整表

平成X年3月31日

(単位:円)

摘 要	金	額
東京商店の当座預金出納帳残高		(¥ )
加算:		
( )	(¥ )	
( )	( )	
( )	( )	( )
計		( )
減算:		
( )	(¥ )	
( )	( )	
( )	( )	( )
日商銀行残高証明書残高		(¥ )

期末修正仕訳

No.	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				

問 題 (20点)

東京商店(株)が、取引銀行(日商銀行)より取り寄せた当座預金の残高証明書(平成X年3月31日現在)は、当初の当座預金出納帳の残高と一致していなかった。次の資料により銀行勘定調整表を作成しなさい(摘要欄と金額欄に記入すること)。また、期末修正仕訳を示しなさい。ただし仕訳が不要な場合には「仕訳なし」と記入すること。

資料Ⅰ 日商銀行残高証明書残高 ￥987,000

資料Ⅱ 東京商店の当座預金出納帳残高 ￥960,000

資料Ⅲ 不一致の原因を調査したところ次の事項が判明した。

1. 得意先鎌倉商店に対する受取手形¥50,000が期日決済され取り立てられたが、通知が当社に未達であった。
2. 仕入先大船商店に買掛金支払いのため小切手¥20,000を振り出したが、先方に未渡しであり、未だに出納係の手許にあった。
3. 送金手数料¥3,000が当座預金口座から引き落とされていたが、当社では未記入であった。
4. 得意先横須賀商事より売掛金の回収として、同商事振り出しの小切手¥10,000を受け取り、ただちに当座預金として預け入れたが、いまだ取り立てられていなかった。
5. 仕入先川崎商店に対する買掛金の支払いとして、小切手¥40,000を振り出したが、未取付であった。
6. 3月31日に現金¥70,000を当座預金口座へ預け入れたが、銀行の営業時間終了後であったため、銀行は翌日の入金として処理していた。

銀行勘定調整表

平成X年3月31日

(単位:円)

摘 要	金 額	金 額
東京商店の当座預金出納帳残高		(¥ 960,000)
加算:		
(入金連絡未達 ★)	(¥ 50,000)	
(未渡小切手 ★)	( 20,000)	
(未取付小切手 ★)	( 40,000)	(★ 110,000)
計		( 1,070,000)
減算:		
(送金手数料未記入★)	(¥ 3,000)	
(未取立小切手 ★)	( 10,000)	
(時間外預入 ★)	( 70,000)	(★ 83,000)
日商銀行残高証明書残高		(¥ 987,000)

※入金連絡未達→当座預金振込通知未達、時間外預入→締切後預入 などの表現も可

期末修正仕訳

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	当 座 預 金	50,000	受 取 手 形	50,000
2	当 座 預 金	20,000	買 掛 金	20,000
3	支 払 手 数 料	3,000	当 座 預 金	3,000
4	仕 訳 な し			
5	仕 訳 な し			
6	仕 訳 な し			